

アムスルだより

No. 130 2014年 11月10日

Akajima Marine Science Laboratory 阿嘉島臨海研究所



〒901-3311 沖縄県島尻郡座間味村字阿嘉179

ホームページもご覧下さい。http://www.amsl.or.jp

TEL:098-987-2304 FAX:098-987-2875 E-mail:amsl@oki-zamami.jp



●ひげで種類を見分けよう

ーカノコイセエビー

11月です。ずいぶん涼しくなってきました。ちょっと前までは半そで半ズボンでも暑いくらいだったのに、もう朝晩は上着がほしくなります。海水温も台風19号が来た10月11日までは26.5℃以上あったのに、その後急激に下がり、27日頃にはおおむね25℃台、11月4日にはとうとう24℃台にまで下がってきました。すっかり秋という感じです。もう2か月もするとお正月になりますが、今回はひと足先におめでたい席につきものの海の動物、イセエビの仲間についてお話ししたいと思います。

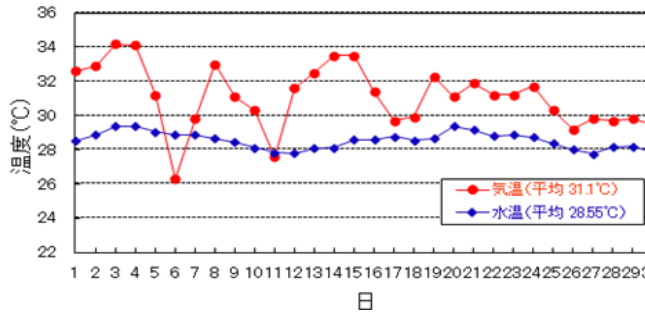
長くて立派な触角や大きくしっかりした体はいかにもおめでたい感じがですが、ゆでたときの赤い色が高貴で、魔除けになると考えられていたり、長いひげと曲がった背が老人に似ているため長寿の意味を持つとされたり、イセエビという名

前から‘威勢(いせい)がよい’ためとか伊勢神宮との関連などでイセエビは縁起が良いとされるようです。イセエビの名はやはり伊勢でたくさんとれたためについたもので、この類のエビのグループの名前にも使われますが、その中の1種の正式な和名でもあります。しかし、このイセエビという名の種は、慶良間の海にはすんでいません。慶良間にすむイセエビ類としてきちんとした記録が残っているのは、カノコイセエビとシマイセエビの2種だけです。けれども、マジノハマではゴシキエビも観察されていますし、沖縄本島周辺の状況を参考にすると、そのほかにケブカイセエビとニシキエビも生息しているだろうと思われます。すると、合計5種のイセエビ類が慶良間にいるということになりますが、ここで1つ考えなければならないことがあります。それは、以前は1種と考えられていたカノコイセエビに、実はいくつかの種が混じっていたということです。

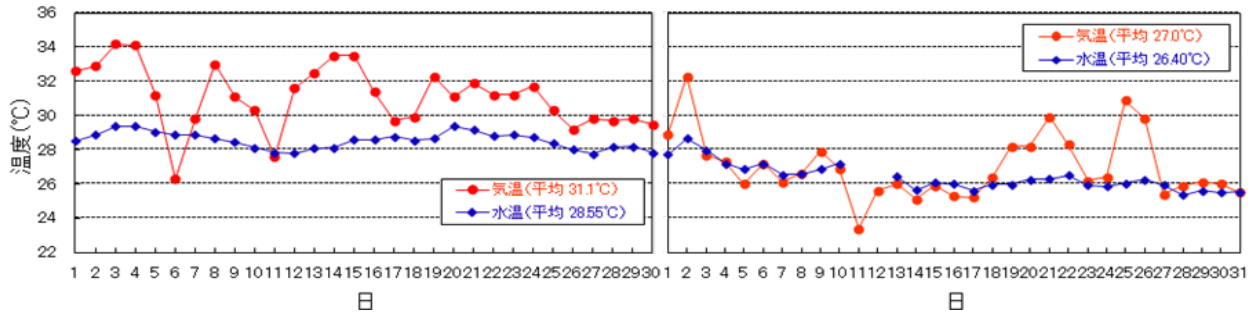
カノコイセエビは、背に小鹿のような白い点々がある(ケラマジカにもありますね)ので、‘鹿の子’イセエビという名がつけました。たぶん慶良間で一番よく見かけるイセエビ類で、冒頭の写真がマジノハマでふつうに見られるカノコイセエビです。このように、カノコイセエビの脚には白い縦じま模様があり、そしてその短いひげ(第1触角;よく目立つ一番長いひげは第2触角といいます)

定点観測

2014年9月



2014年10月



には、白いしま模様があります①。ところが、小笠原諸島などにすむカノコイセエビには、このひげの縞模様がなく触角全体が赤茶色をしているものがあるのです②。また、同じように第1触角にしま模様がないのですが、その触角全体が白っぽい色のもの（体の色もオレンジ色に近いらしいです）が奄美大島や沖縄本島周辺などから見つかりました③。そして、最近沖縄本島で脚が白い縦じま模様ではなく、白い点々模様のものも見つかったのです④。これら4つの‘カノコイセエビ’については、長い間いろいろと調べられてきました。その結果、現在では、①が本当のカノコイセエビで、②にはアカイセエビ、③にはアマミイセエビ、そして④にはネッタイイセエビという名前が付けられました。ただし、この4つのうち②のアカイセエビと③のアマミイセエビは独立した種ですが、①のカノコイセエビと④のネッタイイセエビは亜種とされています（内地のニホンジカとケラマジカの関係と同じです）。ややこしくなりましたが、こういうわけで、これまで‘カノコイセエビ’と呼ばれていたものには3種が含まれ、そのうちの1種には2亜種があるということになります。

さて、では、慶良間にはいったい何種（何亜種）のイセエビ類がいるのでしょうか。実は申し訳ないことに、まだきちんとした調査や研究をおこなっていない

ので、この質問に答えることができません。イセエビの仲間は夜行性で、あまり情報がないのです。興味のある人や、すでにイセエビ類の写真を持っている人はぜひその種類を調べてみてください。そして、研究所にその名前を教えてもらえると助かります。もちろん、名前などについての相談も大歓迎です。

● 阿嘉島の海より

10月25日、すばらしい秋晴れの中、座間味村の三つの島の住民が一堂に会し、体力を競い合い、親睦を深める村民大運動会が開催されました。今年も阿嘉小中学校のグラウンドが会場となりました。いつもは村内の五つの区対抗（座間味、阿真、阿佐、慶留間、阿嘉）で競技が行われ優勝を争うのですが、今年も修学旅行の受け入れなどが重なったことで、座間味島からの参加者が少なく、急遽座間味島の三つの区は一つのチームとして競技が行なわれました。そのため、リレーや綱引きなどの得点が加算される種目についても今年も得点制ではなく、例年と比べるとやや盛り上がり欠ける運動会となってしまいました。それでも、青空の下、みんな一生懸命に競技し、時には笑いもおこる楽しい運動会となりました。

